

科目名	古代日本文化論特講	担当者	コンドウ ケンシ 近藤 健史	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講義については古代日本の人々が、外国からの「文化」や「言語・文字」を受け入れたことにより、何を創造したのかを考えることを目的とする。具体的には、奈良時代に、東アジアにおける異文化交流にあって、日本人は何を創造したのか、どのように外国語と付きあっていたのかを明らかにする。		
到達目標	本講義は古代日本における異文化との交流を明らかにすること、もう一つは、漢字、漢語と出会い、何を表現するようになったのかについて学ぶことを到達目標とする。		
学修方法	本講義の学修方法は、基本教材『万葉びとの生活空間』と『古代日本人と外国語』を在宅学習して、レポート課題について参考文献等を調べ、レポートを作成し、その後教員による添削を基本とする。		
スケジュール	前期：基本教材『万葉びとの生活空間』を学習して、前期レポート課題（1）（2）について9月中旬までにレポート提出する。 後期：基本教材『古代日本人と外国語』を学習して、後期レポート課題（1）（2）について1月の課題提出締切日までにレポート提出する。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	
	平常評価	%	
履修者への要望	参考文献にあげたもの以外にも、各自で関連する論文等を探し読んで欲しい。積極的な熱意あるレポートを望む。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 上野 誠 教材名： 『万葉びとの生活空間』（塙書房，はなわ新書 078，2000 年） ISBN:978-4-82-734078-5 1,200 円+税
	本教材は、飛鳥・奈良時代の万葉びとが生活した空間の中で、どのような万葉歌の表現が生まれてきたのかについて述べている。具体的には、万葉びとと「都」「庭園」「耕作地」などの生活空間との関係である。
参考図書	上野 誠『万葉びとの奈良』（新潮，新潮選書，2010 年）ISBN:978-4-10-603655-2，1,100 円+税 渡瀬昌忠『渡瀬昌忠著作集 第六巻 島の宮の文学』（おうふう，2003 年） ISBN:978-4-27-303256-2 12,000 円+税 辰巳正明『悲劇の宰相・長屋王』（講談社，1989 年） ISBN:978-4-06-258019-9 ・参考文献は、教材の巻末に「参考文献一覧」と記してある。
履修上のポイント	東アジアにおいて、「武」の王から「文」の王に転じようと帝王たちは歴史に名を残す「庭園」を造ったという。わが国においても飛鳥・奈良時代から王の宮や個人の邸宅に「庭」が造られた。古代庭園の思想が、歌や生活とどのようにかわるのかを理解することが大切である。 本教材の「はじめに」を必ず読むこと。
レポート課題 1	万葉びとの生活空間における「シマ」と呼ばれる庭園の文化的意味について説明しなさい。 <b>留意点：</b> 庭園が「シマ」と呼ばれる意味、「島の大臣」の呼称、「島の宮」の主人、「島の宮」の歌（巻 2-171~193）などについて考えてみること。
レポート課題 2	長屋王の庭園、作宝楼における「菊花の宴」と「尾花の宴」の歌の場とその意味について説明しなさい。また、二つの宴の様子を想像し、説明しなさい。 <b>留意点：</b> 「菊花の宴」（『懐風藻』66・68・71）と「尾花の宴」（『万葉集』巻 8 -1637・1638）を理解すること。そして「菊花」「尾花の室」の意味することについて考えること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 湯沢質幸 教材名： 『増補改訂 古代日本人と外国語—東アジア異文化の交流の言語世界—』（勉誠出版，2010 年）ISBN:978-4-58-528002-6 2,800 円+税
	本教材は、古代日本における異国言語との格闘の歴史を明らかにしたものであり、「言語」から考える東アジア文化交流史である。なお「主要参考文献」が巻末にある。
参考図書	平川南他編『文字と古代日本 2—文字による交流—』（吉川弘文館，2005 年） ISBN:978-4-64-207863-4 6,500 円+税 岸俊男編『日本の古代 14—ことばと文字—』（中央公論新社，1996 年）ISBN:978-4-12-402547-7 1,748 円+税 大島正二『漢字伝来』（岩波書店，2006 年）ISBN:978-4-00-431031-0 760 円+税
履修上のポイント	古代日本人は、東アジアの人々とどのような言語で交流し対処していたかを学んで欲しい。
レポート課題 1	古代日本人は、外国語に何を感じたのか説明しなさい。 <b>留意点：</b> 呉音・漢音・仏教界・儒学界などをキーワードとして考えること。
レポート課題 2	古代日本における「通訳」の役割と実態について説明しなさい。 <b>留意点：</b> おさ・対象国・身分・養成などをキーワードとして考えること。

科目名	古代日本文化論特講	担当者	ノグチ ケイコ 野口 恵子	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>古代の日本文学作品を取り上げる。日本の古代には、人々が共有していたルールが存在していた。21世紀の我々からすれば、つい我々の常識を当てはめてしまおうとするが、それでは古代の人びとの思考を理解することはできない。作品を読む際も同様で、古代の人々の共同性を想定する必要がある。この点を踏まえた上で、文学の生成と展開の様相はどのようなものなのかを考え、その時代の文化的特徴を捉える。また、資料の扱い方、分析の方法といった研究手法も身につける。</p>		
到達目標	<p>古代の人々は、自らを取り巻く状況をどのように捉えていたのかを理解したい。こうした営みの継続は、現代社会における異文化に対する理解へと繋げることが可能である。すなわち、研究しながら、生きる力を身に付けられるのである。</p> <p>加えて、修士論文の執筆時に必要となる研究手法を、基本教材から体得したい。</p>		
学修方法	<p>まずは基本教材を精読し、各章ごと内容をまとめる。それから課題に取り組んでほしい。理解が深まらない時は、参考図書を精読する。それでも十分ではなければ担当教員に質問すること。</p> <p>なお、レポートを作成する際は、論の展開が分かる計画書（箇条書き可）を担当教員に提出してから、執筆を始めること。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題（1）→2016年7月中旬まで</p> <p>教材1のレポート課題（2）→2016年9月中旬まで</p> <p>後期：教材2のレポート課題（1）→2016年11月中旬まで</p> <p>教材2のレポート課題（2）→2017年1月の課題提出締切日まで</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	課題にきちんと答えられているか、またレポートの体裁、例えば起承転結の構成になっているか評価する。
	平常評価	20 %	提出物の有無やメール、manabaでの活用度を評価する。
履修者への要望	<p>基本教材に書かれている専門用語等、理解できない内容が見つかった場合は、すぐに教員に質問せず自分で調べて欲しい。自分で調べて理解した方が、身につきやすいからだ。もちろん、辞書などに説明がない内容もある。その場合は教員が指導する。</p> <p>また、1度の精読で内容がまとめられなかった場合、そこであきらめずに、何度も読み返してみよう。私自身も何度も読み返している。論文の読解・執筆は、繰り返す行うほど学習効果が高い。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 古橋信孝 教材名： 『文学はなぜ必要か 日本文学&ミステリー案内』（笠間書院，2015年） ISBN:978-4-305-70784-0 2,400円+税
	なぜ文学が人間に必要なのかを考えている一書。同時に、言葉とはどういうものかという問いに向き合いながら、文学の面白さ、その時代にはどのような問題を孕んでいたのかななどにも触れている。そのような考えの中から、日本語の文学の流れにまで言及している。
参考図書	古橋信孝『神話・物語の文芸史』（ペリかん社，1992年），『日本文芸史』【全8巻】（河出書房新社・1986～2005年）など
履修上のポイント	各時代を代表する文学作品を取り挙げている。それぞれの時代がどのような時代だったのか、また時代によって文学の性質が異っていることにも留意してほしい。加えて、なぜその文学がその時代に要求されたのかについても考えて欲しい。なお、この教材は、著者がすでに論文で書いた内容を踏まえて書いている箇所が多々あるので、必要に応じて著者の論文も読む方が望ましい。
レポート課題 1	第1章から第6章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを述べなさい。（3,000字） <b>留意点：</b> 各章のタイトルは疑問形式で付けられている。その問いに対して、筆者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えをもっているのかを述べること。
レポート課題 2	第7章から第12章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを述べなさい。（3,000字） <b>留意点：</b> 各章のタイトルは疑問形式で付けられている。その問いに対して、筆者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えをもっているのかを述べること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 梶川信行 教材名： 『額田王—熟田津に船乗りせむと—』（ミネルヴァ書房，2009年） ISBN:978-4-623-05598-2 3,000円+税
	『万葉集』の女流歌人として名高い額田王は、生身の実態を持った存在ではない。本書では、七世紀に実在した皇裔の一人で、『万葉集』に「額田王」として名を残した女性を捉えようとしている。そして、そのような彼女の動きの中で、いかに作品が生まれたのかを考えている一書である。
参考図書	梶川信行『創られた万葉の歌人 額田王』（はなわ書房，2000年），多田一臣『額田王論—万葉論集—』（若草書房，2001年）など
履修上のポイント	『万葉集』に「額田王」として名を残した女性と、『日本書紀』に「額田姫王」として名を残した女性とは同一人物である。しかし、文学作品と歴史書という編纂目的が異なる書物では、同一人物であっても扱い方が異なっている。その違いに留意すること。また、本書から、資料の扱い方や資料の分析方法などの研究手法を学んでほしい。
レポート課題 1	「宮廷歌人」として、額田王はどのような役割を担っていたのかを、具体例を挙げながら説明しなさい。（3,000字） <b>留意点：</b> 「宮廷歌人」は、古代の官僚制度の中に存在しない呼称である。そのような呼称で額田王を捉えることによってどのような問題を孕んでいるのかについても留意してほしい。
レポート課題 2	天智挽歌群と持統朝の作品における額田王の作歌状況は、それまでの作品とは異なる。両者を比べてどのように変化しているのか、それぞれ説明しなさい。（3,000字） <b>留意点：</b> 天智天皇の死後、作歌状況において明らかな違いが見られる。例えば、天武天皇の時代の作品が一首も残されていないなど。そのような違いを見逃さないでほしい。